

# 足元の原石を宝石に研磨できる 地域が発展する

東京大学名誉教授  
つきおよしお  
月尾嘉男

## 巨大な失敗の連続

政府の政策の影響もあり、地域創生が流行になっている。しかし、戦後の政府が音頭をとった工業整備特別地域、テクノポリス、オフィスアールカディア、国際会議観光都市など大半の政策は期待ほどの効果を地域にもたらさなかっただけではなく、雄大な勇払原野を干拓した苫小牧東部大規模工業基地が象徴するように、貴重な自然環境を破壊したにもかかわらず企業は立地せず、荒野を

造成した結果になっている事例も少数ではない。

理由は官僚が社会の動向から政策を立案するが、実現する時期には社会が変化してしまっていること、一気に多数の地域が類似の施策を実行するために需要の分捕り合戦になり、期待ほどの効果がないことである。二〇〇四年に五二の国際会議観光都市が指定されたが、一〇年間で国際会議は一・四倍しか増加していないから、すべてに恩恵は到達しない。石原慎太郎氏が役人に、君たち



の現実には書類だけだろうと叱責していたとおりである。

それではということ、バブル経済の最中に地域が熱中したのがテーマパークである。しかし一桁の年数

しか経営できなかったテーマパークが続出し、最近では、廃墟となった施設の見学が流行になっているほどの状況である。急造の施設が駄目なら既存の資産の活用ということで世界遺産が注目されているが、調査してみると、奈良や日光など少数を例外として、登録された時期から客数は皮肉なことに減少し始めている。

## 足元の原石が宝となる

対極の事例を紹介したい。宮城県石巻港から小型客船に約四〇分乗船すると、田代島という小島に到着する。人口一〇〇人程度であるが、平均年齢七一歳、高齢化率八二％という、日本の高齢過疎を象徴する離島である。ところが船内では中国語や朝鮮語でにぎやかである。人口の二倍以上も繁殖しているネコを当ての外国人観光客である。このようなネコの繁殖している離島は全国に一〇以上存在し、いくつかは名所になっている。

津軽平野の中央に位置する青森県五所川原市は地吹雪で有名である。

筆者も体験したことがあるが、歩行も困難なほどの自然の猛威である。ところが二八年前から地元の人々が地吹雪体験ツアーを開始したところ、国内のみならず台湾からも参加する物好きな人々が増加し、累計で約一万二〇〇〇人にもなっている。地域では迷惑以外の何物でもなかった強風の雪原を黙々と歩行するだけであるが、立派な観光資源である。

最近では有名であるが、山形県鶴岡市の加茂水族館は入館者数の激減で二〇年前には閉鎖が検討された。そこで館長が中心となって費用のかからない水棲生物を検討し、眼前の日本海でクラゲを採集して展示した。意外にも人気となり、一〇年後には開館以来となる二五万人を突破した。そこで新館を建設すべくクラゲ債権を発行したところ、一五分間で完売となり、昨年六月に開館した新館には、半年で七〇万人が来場という盛況になった。

## 地域に光り輝く地上の星々

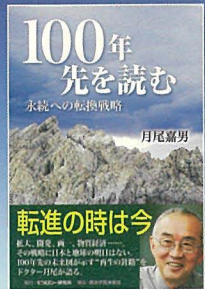
これらは数例であるが、日本各地

には政府の政策に依存するわけでもなく、世界遺産という大物を目指すわけでもなく、足元にある原石を発見して加工し、宝石に仕上げている地域が多数存在する。

現在の日本は国内総生産額あたりの長期国債発行残高の比率が世界最高であるにもかかわらず、その借金を地域にばらまいている。しかし、その内容は石原慎太郎氏が指摘する机上の書類の現実を根拠にしたものが多数である。

それは地域が政府に依存し、独自の発想で発展する意欲を阻害するものでしかない。地域に埋蔵されている原石を発見するべきであるが、成功している地域に共通するのは国家の政策や目先の流行に左右されず、真剣に地域の将来を構想する人々の存在である。

政府の補助という光源を反射する惑星ではなく、自身で光り輝く恒星こそ、未来へ進展する必須の条件である。このような地上の星々を目指して努力される人物の登場を切に期待したい。



絶賛発売中!!  
ご注文は添付のハガキで